

長野県自転車活用推進計画ネットワーク会議（令和2年6月書面会議）出席者からの発言要旨

【利用環境整備】

- 街路樹の枝が自転車走行の邪魔をして、やむを得ず歩道を走行しなければならない状況や、自転車歩道原則不可の車道と歩道間の植栽から雑草が大きく車道にはみ出してスムーズな自転車の左側通行を妨げている車道が見られる。諏訪建設事務所が行っている「諏訪湖アダプト・プログラム」などの官民一体となった道路環境づくりの取り組み等を行い、自転車が安心して走りやすい道路環境を生み出す取り組みを実施してはどうか。
- 「少し走ると一時停止」つまり「自動車優先」の基本的考えは変わっていないため、「自転車道」と呼ぶにはためられる自転車道がある。
- 自分の移動したい時に自由に移動できる手段としての自転車の利用が増え、今後は電動アシスト自転車の普及が進むだろう。そうした時に、年配の人も安心して走れるような自転車走行環境の整備が不可欠となる。

【健康増進・環境負荷低減】

- 通勤時に自転車に乗ることで体のリフレッシュと脳の活性化が期待できるため、積極的に健康づくりの手段として活用を推進してほしい。
- マウンテンバイクが公認で走れるフィールドの整備促進をしてほしい。

【観光振興】

- 「走り」を楽しむ来訪者の受け入れ体制整備とともに、ターゲットを広げた「旅を楽しむ為の自転車」活用の観点を是非加えてほしい。

【安全・安心／保険加入促進】

- 点検整備（年に1回）の推進を実施している。県民に対して「点検整備をしてから乗り出す」ことが大切である旨を広報等で訴えてほしい。
- 幼少期から自転車に正しく安全に乗るための知識を得られる機会を確保したい。（ルールやマナーを学べる「子供自転車大会」への参加を促す等）
- 高齢者の自転車事故が多いため、注意喚起が必要であり、講習会や啓発イベントを積極的に県内で展開していくことが必要。
- 事故を未然に防ぎ、交通法規を遵守する意識を事前に身に付けさせるため、スケアード・ストレート技法による交通安全教室を引き続き開催してほしい。
- 自転車のヘルメット着用については、「被害軽減器具」として努力目標となっているが、特に高校生の着用については皆無であり、施策を検討してほしい。大人用のお洒落なヘルメットの周知や販売している業者の紹介等を積極的に行っていくことが必要。
- 「ドライバーの自転車に対する意識変革」も非常に大切である。「シェアザロード」と思っているドライバーは少なく「自転車は邪魔」という意識を変えてもらうための施策や情報発信をしてほしい。